



青森県感染症発生情報  
(2026年第1週)

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenko/eisei/infection-survey.html>

I 第1週の発生動向 (2025/12/29~2026/1/4)

- インフルエンザについては、三戸・八戸市保健所管内、西北保健所管内及び上北保健所管内で警報が継続しています。一方、東津軽・青森市保健所管内の警報は解除となりました。定点当たり報告数は減少傾向にあります。引き続き新型コロナウイルス感染症の予防も兼ねて、ワクチン接種を含めた基本的な感染対策の徹底をお願いします。
- 水痘については、西北保健所管内の注意報は解除となりました。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「ノロウイルスによる感染性胃腸炎」です。最終ページに掲載しています。

※記載データは、速報値です。

II 第1週五類定点把握対象疾患

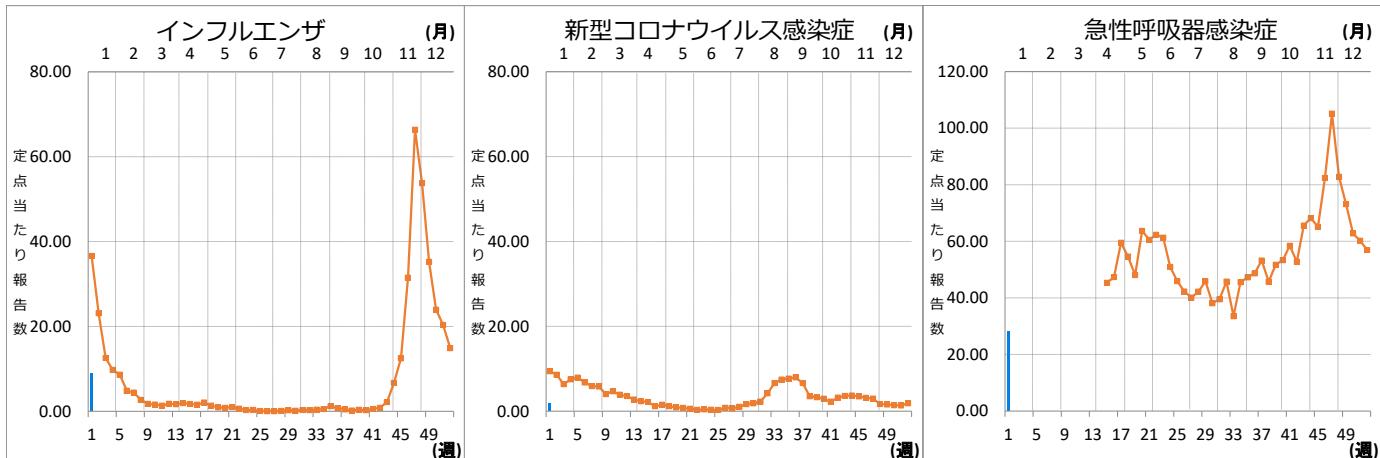
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況TOPページをご覧ください。

■は警報、■は注意報。「空欄」は患者報告無し。

	東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		
急性呼吸器感染症	インフルエンザ	46	5.75	39	4.33	104	13.00	50	10.00	109	12.11	54	9.00	402	8.93	-373
	新型コロナウイルス感染症	11	1.38	18	2.00	12	1.50	9	1.80	24	2.67	9	1.50	83	1.84	-13
	急性呼吸器感染症	274	34.25	172	19.11	209	26.13	168	33.60	354	39.33	84	14.00	1261	28.02	-1699
	RSウイルス感染症	10	2.00	4	0.67									14	0.44	-8
	咽頭結膜熱					1	0.14	2	0.50					3	0.09	-8
	A群溶血性レサ球菌咽頭炎	8	1.60	5	0.83	6	0.86	2	0.50	4	0.67			25	0.78	-29
	感染性胃腸炎	2	0.40	5	0.83	8	1.14	11	2.75	1	0.17	6	1.50	33	1.03	-96
	水痘				1	0.17				1	0.17	1	0.25	3	0.09	-14
	手足口病															0
	伝染性紅斑					1	0.14							1	0.03	0
	突発性発しん	1	0.20			1	0.14							2	0.06	-9
	ヘルパンギーナ															-2
	流行性耳下腺炎															0
	眼科	急性出血性結膜炎														0
	基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)														0
		クラミジア肺炎														0
		細菌性髄膜炎														0
		マイコプラズマ肺炎	2	2.00	1	1.00								3	0.50	-4
		無菌性髄膜炎					1	1.00						1	0.17	1

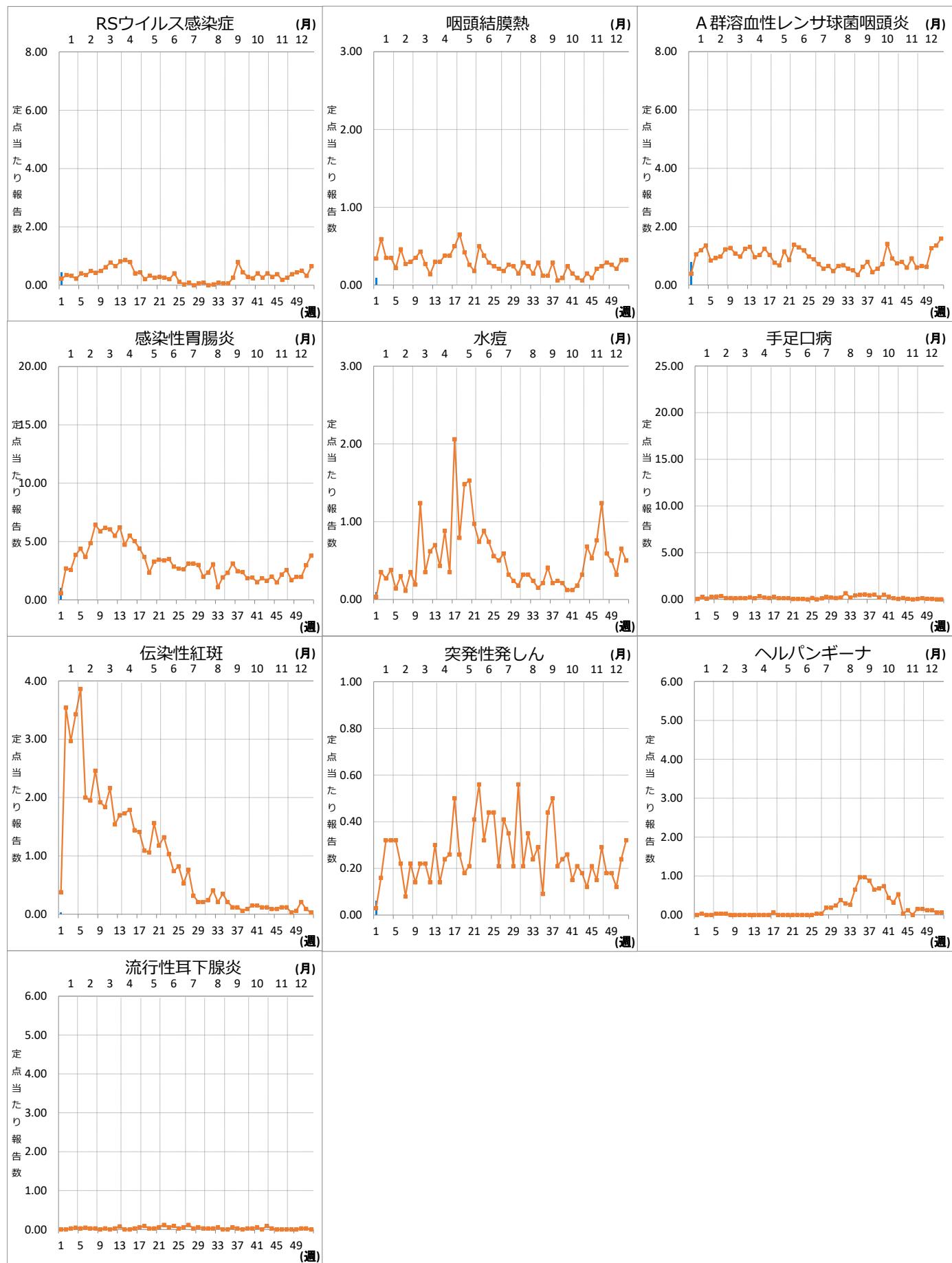
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第1週)

グラフの説明 ——————は2026年青森県、—————■は2025年青森県



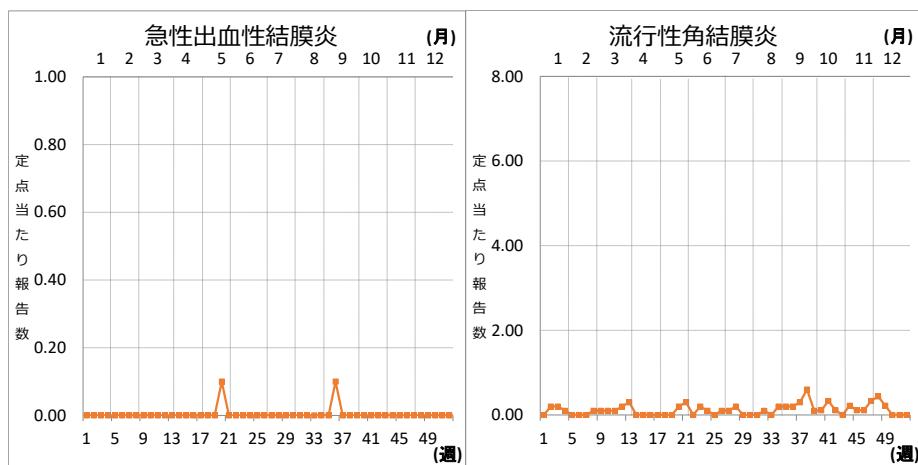
#### IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026年第1週）

グラフの説明  は 2026 年青森県、 は 2025 年青森県



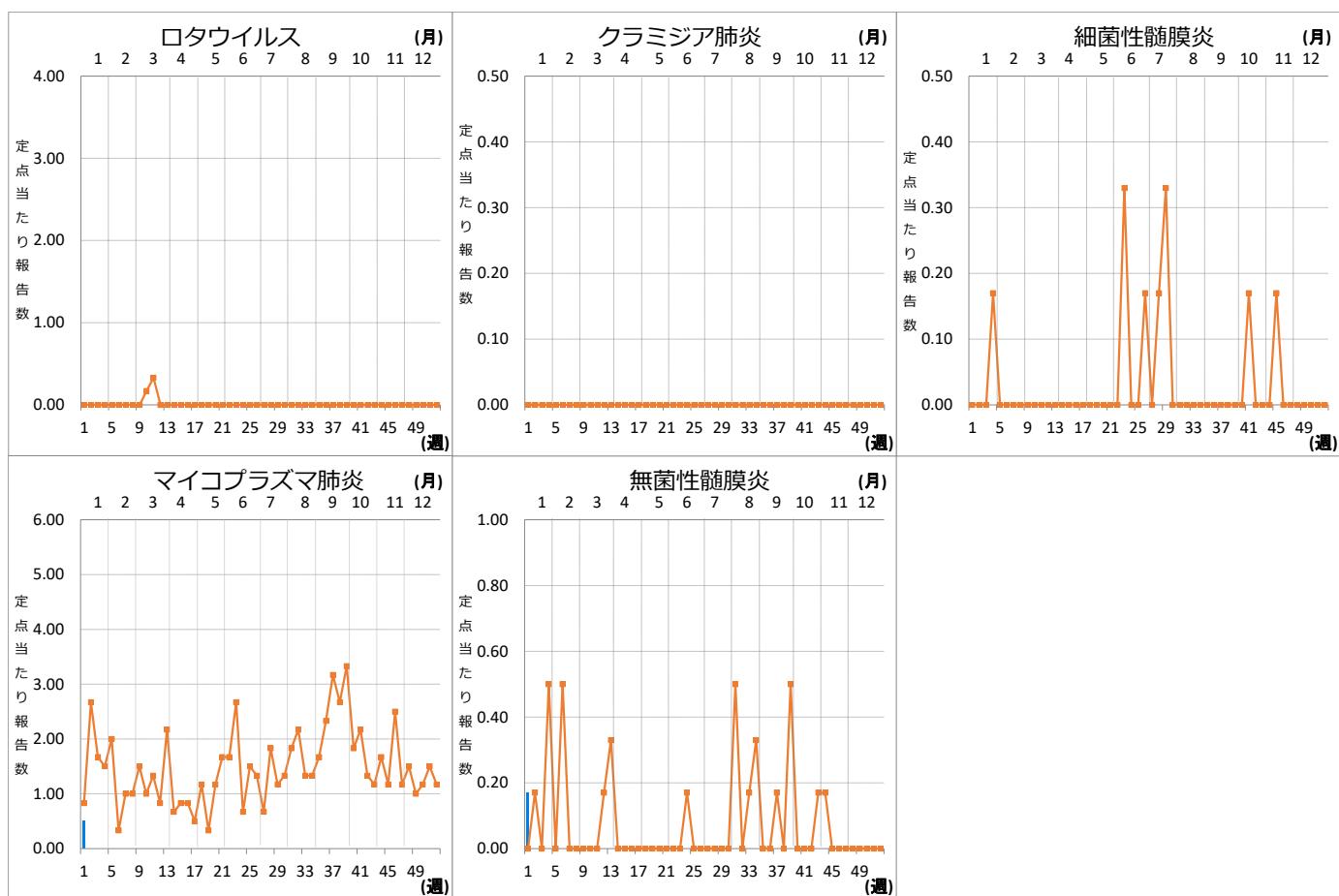
## V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026年第1週）

グラフの説明  は 2026 年青森県、 は 2025 年青森県



## VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026年第1週）

グラフの説明  は 2026 年青森県、 は 2025 年青森県

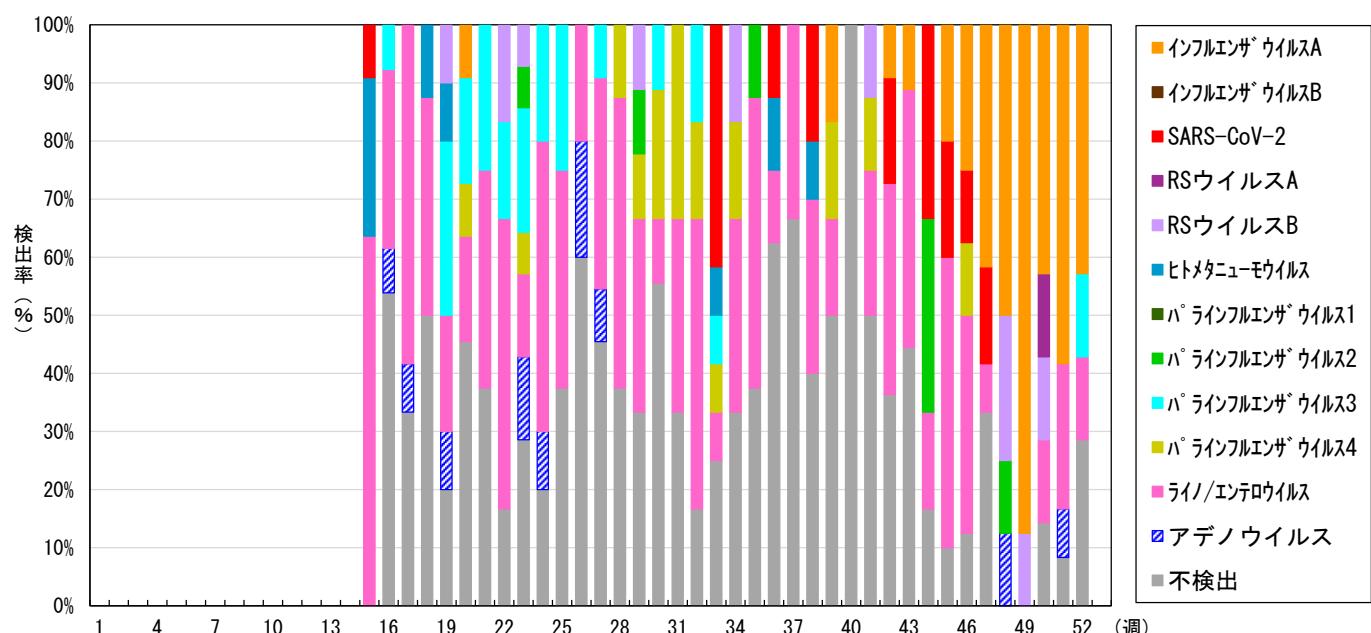


## VII 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

### (1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2025年第52週～)

急性呼吸器感染症	2025年	2026年						
	52週	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週
提出検体数	7	0						
インフルエンザウイルスA	3							
インフルエンザウイルスB	0							
SARS-CoV-2	0							
RSウイルスA	0							
RSウイルスB	0							
ヒトメタニューモウイルス	0							
パラインフルエンザウイルス1	0							
パラインフルエンザウイルス2	0							
パラインフルエンザウイルス3	1							
パラインフルエンザウイルス4	0							
ライノ/エンテロウイルス	1							
アデノウイルス	0							
不検出	2							
検査待ち	0	0						

### (2) 検出された病原体の週別推移 (2025年第15週～)



## VIII 全数把握対象疾患発生状況（第1週）

報告はありませんでした。

## IX 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2025年第50週～2026年第1週）

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
50	腸管出血性大腸菌感 染症1人	百日咳1人	結核1人 百日咳1人	結核1人	結核1人	百日咳1人
51	結核1人 水痘(入院例)1人 百日咳1人		百日咳1人	百日咳1人		
52	結核1人 梅毒2人 百日咳1人			梅毒1人		カルバペネム耐性腸 内細菌目細菌感染症 1人 百日咳1人
1						

## X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注:発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

### 全国

(2025年第1週～第52週までの累計)

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性 大腸菌 感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス 症	エムポックス
累積報告数	14480	4	59	4319	32	8	585	133	26	23
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	オウム病	回帰熱	コクシジオイ デス症	ジカウイル ス感染症	重症熱性 血小板減少 症候群	ダニ媒介脳炎	チケンギニア 熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱
累積報告数	12	6	7	1	191	2	21	290	164	674
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類
疾病名	日本脳炎	ブルセラ症	ポツリヌス症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ 症	レプトスピラ症	アメーバ 赤痢	ウイルス性 肝炎
累積報告数	4	2	1	22	18	1	2413	63	449	260
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	カルバペネム 耐性腸内細菌 目細菌感染症	急性弛緩性 麻痺	急性脳炎	クリプトスポリ ジウム症	クロイツフェ ルト・ヤコブ 病	劇症型溶血性 レンサ球菌 感染症	後天性免疫不 全症候群	ジアルジア 症	侵襲性イン フルエンザ 菌感染症	侵襲性髄膜炎 菌感染症
累積報告数	1197	37	630	23	184	1382	866	35	650	84
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	侵襲性肺炎球 菌感染症	水痘 (入院例)	梅毒	播種性クリ プトコックス 症	破傷風	ハンコマイシン 耐性腸球菌 感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性 アシнетバク ター感染症
累積報告数	3391	665	13530	178	94	92	89387	11	265	9

### 青森県

(2026年第1週の累計)

報告はありませんでした。

## XI 病原体検出情報

報告はありませんでした。

## XII 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026年第1週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第1週	介護・老人福祉関係施設	15	八戸市保健所

2026年報告件数及び症者数

施設種別	月(週)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)	
	1週	2週	3週	4週	5週	6-9週	10-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週
介護・老人福祉関係施設	件数	1														1
	発症者数	15														15
児童・婦人関係施設等	件数	0														0
	発症者数	0														0
障がい関係施設	件数	0														0
	発症者数	0														0
その他施設	件数	0														0
	発症者数	0														0
計(月別)	件数	1														1
	発症者数	15														15

## 感染症の窓

### ノロウイルスによる感染性胃腸炎

ノロウイルスによる食中毒や胃腸炎は、嘔気・嘔吐・下痢を主症状とし、気温が下がる冬季間に流行する傾向があります。健康な方は軽症で回復しますが、子どもやお年寄りなどでは重症化したり、吐物を気道に詰まらせて死亡することもあるので注意が必要です。

主な感染経路は、糞口感染や、ノロウイルスに汚染された食品の摂取による経口感染です。また、ノロウイルスの感染力は非常に強いため、吐物や排泄物が乾燥すると、それに含まれるウイルスが空中を浮遊し、それらを吸い込むことによって感染します。さらに、汚染されたカキなどの二枚貝を生、あるいは加熱不十分な調理で喫食したり、感染した調理従事者を介して食品が汚染され、それを喫食することにより感染します。

ノロウイルスによる胃腸炎に有効なワクチンはなく、対症療法が中心となります。

ノロウイルスによる胃腸炎を予防するために、食品は十分に加熱し、調理器具の洗浄・消毒を徹底しましょう。ノロウイルスはアルコール消毒が効きにくいため、流水とせっけんでしっかりと手を洗いましょう。また、患者の吐物や便は、部屋をよく換気し、マスクやガウン、ゴム手袋などを着用して適切に処理し、汚染された衣類等は適切な濃度の次亜塩素酸ナトリウムによる消毒や加熱処理を行いましょう。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。

☞ノロウイルスに関するQ&A(厚生労働省HP)



#### ノロウイルスの感染を広げないために

##### 食器・環境・リネン類などの 消毒

○患者のおう吐物やむなどは、次のような方法で、すみやかに洗浄し、二次感染を防ぎましょう。

○ノロウイルスは、乾燥すると水中に溶け、

水中に浮遊し、消滅します。

○オブジェクト、衣類、ドアノブなども塩素消毒液などで

消毒します。

●次亜塩素酸ナトリウムは金属腐食性があります。

●金属部（ドアノブなど）消毒後は十分に薬液を拭き取りましょう。

○食器などは、流水でよく洗浄し、

●流水でよく洗浄します。

●手洗いも必ず行います。

●手洗い後は、流水でよく洗浄します。

●高濃度の乾燥剤などを使用すると、殺菌効果は高まります。

##### おう吐物などの 処理

○患者のおう吐物やむなどは、次のような方法で、すみやかに処理し、二次感染を防ぎましょう。

●使い捨てのマスクやガウン、手袋などを着用します。

●ハンドペーパーなどの（市販される凝固剤等）を

使用することも可いです。静かに拭き取り、薬液消毒後、水拭きをします。

●拭き取ったおう吐物や手袋などは、ビニール袋に密閉して廃棄します。その際、できれば

ビニール袋の中で、1,000ppmの塩素消毒液に浸します。

●おきななどを吸い込むないようにします。

●終わったら、おねいねに手を洗います。

#### 塩素消毒の方法

次亜塩素酸ナトリウムを水で薄めて「塩素消毒液」を作ります。

●浓度によって効果が異なりますので、正しく計算しましょう。

製品の濃度	食器・カーテンなどの 消毒液や拭き取り		おう吐物などの 濃度（通常の塩素消毒液）	
	200ppmの濃度の塩素消毒液	1000ppmの濃度の塩素消毒液	250ppmの濃度の塩素消毒液	3L
12%	5ml	3L	25ml	3L
6%	10ml	3L	50ml	3L
1%	60ml	3L	300ml	3L

●製品ごとに濃度が異なるので、表示をよく確認しましょう。

●次亜塩素酸ナトリウムの濃度を間違えると効果が弱くなることがあります。

●おう吐物などの液体をもじり落すと、消毒液が飛散することがありますので、必ず「手洗い上位の位置」をよく確認してから使用してください。

●消毒液を手洗いに使はならない場合は、消毒液の入った容器は、説いて飲むにがないように、消毒液であることをはっきりと明記して保管しましょう。

#### ノロウイルスによる感染について

##### 感染経路

●食器からの感染

●施設したが管理などをして汚染された食品

●ワイルスの蓄積した、加熱不十分な二枚貝など

●手からの感染

●患者の小便やおう吐物からの二次感染

●家庭や施設内などでの飛沫などによる感染

●手から

●感染から発症まで24~48時間

●主な症状

●吐き気、おう吐、下痢、腹痛、微熱が1~2日続く。

●感染しても症状のない場合や、軽い風邪のような症状のこともあります。

●乳幼児や高齢者は、おう吐物を吸い込むことによる肺炎や脳梗塞にも要注意。

##### 症状

●嘔気からの感染

●施設したが管理などをして汚染された食品

●ワイルスの蓄積した、加熱不十分な二枚貝など

●手からの感染

●患者の小便やおう吐物からの二次感染

●家庭や施設内などでの飛沫などによる感染